

第2回岡垣町総合計画審議会 会議録

日 時：令和2年5月28日（木）13：30～
場 所：岡垣町役場 本館3階 大会議室
出席者：委員14名
（事務局）：企画政策室3名
（委託業者）：1名

※この会議録は主な要点を抜粋し、作成しています。また、委員名については非公開としています。

1 会長あいさつ

次の点について審議を行った。

- ・第1回審議会で委員から出された11の質問についての対応
- ・今後の人口推移及び策定スケジュールについて

2 説明事項

- (1) 第1回総合計画審議会資料に係る委員からの質問について（資料1）
- (2) 岡垣町年齢別の人口推移について（資料2）
- (3) 第6次総合計画策定スケジュールについて（資料3）

○事務局から資料1について説明

<質疑>

委 員：アンケート結果についての意見だが、これまでの自治体での取組んできた経験として、町がつくった総合計画を住民が認識していないことが多い。今回の計画では「アベノミクスの3本の矢」のように、全体の大きな目標に住民がわかりやすいキャッチフレーズをつくってもらいたい。住民アンケートの住みにくい理由の意見なども取り上げていく方がよいのでは。

事務局：住民にわかりやすいキャッチフレーズについてはその通りだと思います。住みにくい理由等も踏まえながら、今後、協議できればと思います。

委 員：アンケート調査での課題以外に、第5次総合計画で成果が上がったものや達成できていない施策など整理ができていますか。

事務局：第5次総合計画は今年度までの計画ですが、各課の第5次総合計画に掲げた施策の進捗状況等は毎年把握をしています。総括的なものについては集約し、課題等を整理していますので、今後の審議会でお示しさせていただきます。

委員：人口に関して、子どもの数の減少が見えているので子育て世代を呼びこんでいくことが必要だと感じる。教育の充実があがっているが、その中で英語教育の充実の取組みがされているがどのような状況ですか。子どもが減っている中で校区のバランスが変わってきているので校区編成、学校の規模増強なども見ていきたいと思う。内浦校区などは小規模校の特色を生かしたローカルモデルのような取組をして情報発信していくことが必要ではないかと思う。

事務局：校区の現状についてですが、海老津校区だけは増えており、その他の校区は横ばいか、減少しており、今後はどの校区でも子どもの人口が減少するのは目に見えていますので、校区の在り方を考えていく時期が来ていると認識しています。教育委員会を中心に将来の在り方を考えていきます。英語教育についてですが、5年ほど安河内先生にご指導いただきながら、進めています。コロナの関係でICTや遠隔教育等が話題になっていますが、まちでは一人一人にタブレットは配布していないものの、ICTを活用した教育を行っています。すぐにどのくらい結果が出ているか測定することは難しいのですが、英語の実情としては、小学生から中学生に上がってくる時に成績が良いという結果がでていと聞いています。

委員：この審議会の今後の進め方について、第5次総合計画でめざしたものがどこまで達成できたのかをふまえた中で、今の現状と課題に対して、本審議会では策定方針を示された課題やテーマについて踏み込んだかたちで意見を出していくかたちが良いのでは。自由に議論をしているといろんな意見が出て、委員としてどう対応したらいいかわからない。

委員：全般の工程表はありますが、どういう手順で進めるのか、この会議ではこういう議論をお願いしたいという、この会議の役割・意味合いを示していただければありがたい。

会長：当初の予定では第2回審議会の中で、重要課題について審議することになっていたが、コロナの影響で町の課題についてまとめきれていないと認識しています。委員が言われたその通りであります。第3回からはそのような形で進めていきたいと思えます。

会長：議事録に関しては、要点を公開し、発言者の名前は記載しない。議事録については、各委員に確認を取ってもらうことをお願いしたい。

○事務局から資料2について説明

資料2のポイント

- ・コーホート変化率を用いての将来人口推計
- ・総人口は、20年後に約5,000人減少
- ・小学生・中学生についても20年後に約750人減少。複式学級等の教育上の課題。
- ・15～64歳の生産年齢人口の減少により、税収の減少

- ・65歳以上の人口は20年後、10,000人程度を維持。しかし75歳以上人口が増加することで、医療費や介護給付費などの社会保障費が増加。
- ・高齢者単身世帯数の増加により、空き家等が増加。

<質疑>

委員：第1次総合計画からの地域別人口の推移をみていかないと、将来の予測ができないと思うので、把握をお願いしたい。また、同時に、県勢要覧にデータでも良いので第1～3次産業従事者の人口の推移を出してほしい。第1～3次産業従事者の推移がみえないと今後のまちづくりの意見を出すことができない。

事務局：調査したい。

委員：国の出生率の目標値は高い。実際に現実的などころをふまえて戦略を立てていかなければいけないと思うがどうか。

事務局：現段階では、政府の目標としては合計特殊出生率が2030年から1.8以上に上がっているが全国的に成果は上がっていない。今回は社人研の推計で採用している1.6程度で推計しています。現在の合計特殊出生率が1.4程度なので、社人研推計は子育て施策等で少し合計特殊出生率が改善すると見込んでいます。

委員：コーホート推計で出しているが、人口ビジョンとの整合はどうか。

事務局：人口ビジョンについては、国が目標としている合計特殊出生率1.8、2.07で推計し、かつ若い世代の転入も見込んだ推計をしています。今回の数値は現実的な目標として合計特殊出生率1.6程度で推計しています。人口ビジョンの推計については今後、補正をするのかしないのか検討していく必要があると思っています。

委員：岡垣町は福岡と小倉の中間地でベッドタウン化として進められてきたと思う。しかし、高陽団地は高齢化・過疎化し、新しい団地がたくさん増えて、転入者が増えた状況です。これから先の10年間も同じペースでの人口変動があると考えても良いのか。人口推計では団地が増えたことを加味しているのか。

事務局：今回の推計は2015年と2020年の推移をもとに推計しています。この間の住宅団地の開発は、うさぎ坂やせせらぎの郷であってそこに転入してきた人口を含めた変化率を基に推計しています。将来推計ではこの変化率がずっと続くと仮定していますので、今から5年間に住宅開発等がなければ、この推計よりも早いペースで人口が減少するのではないかと予測できます。

会長：将来人口の目標値、第5次では推計値に基づき35,000人で出していたが、第6次では同様に推計していくと減少した人口を目標値とすることになるがよいのか。

事務局：これからは人口の減少社会になることを意識したまちづくりを検討しなければならないと考えています。

会長：これからは人口減少で推移していることを前提に考えていかなければいけないことを理解しておいてもらいたい。

○事務局から資料3について説明

<質疑>

委員：将来像のキャッチフレーズについて、第4次、第5次も英語に直すと理解できない。英語でも通用するようなものを望みます。第5次の将来像は英語に直すと主語がわからないという指摘を受けた。

事務局：審議会の委員の知恵も頂きながら、考えていきたい。

以上